

# 地域と共創する北海道経済活性化モデルと人材育成

小樽商科大学が所在する「しりべし地域」は、観光地として名高い小樽市、ニセコ町、倶知安町を含む地域であり、農業や漁業、ものづくり、商業など、第1次産業から第3次産業までの各産業が盛んという「魅力」と、過疎化など地方の「課題」が詰まった北海道の縮図とも言える地域です。

本事業では、この「しりべし地域」に、北海道の観光拠点である「札幌」を加えた広域観光圏を対象とし、地域ブランドの確立と観光ネットワークの形成を通じて「総合観光地域」の創出を図ります。本学と地域が課題を共有し、それぞれの資源を活用した「滞在型観光」にかかる取組を起爆剤とし、観光を軸とした産業振興及び人材育成により、北海道経済の活性化を目指します。

## 教育

### 「インターリージョナル」な人材を育成するための教育プログラムの構築

北海道経済を取り巻く環境は、TPP や北海道新幹線の開通などにより著しく変化しており、様々な分野で国際化の波が押し寄せています。道内産業においても、国内だけではなく海外に目を向ける必要があります。「地域を理解」し、「海外に繋げる」ことのできる【インターリージョナル】な人材が必要です。北海道経済に役立つインターリージョナルな人材を育成し、北海道内に継続的に供給することを目的として、これまでの個別各論的な地域教育科目を体系化するとともに、国際的視点を加えた新たな教育プログラムを構築します。

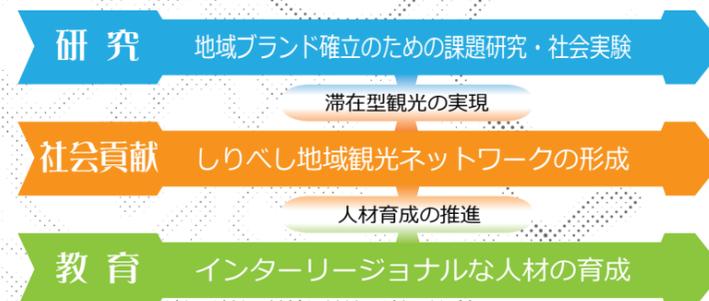
- 「地域」視点を養う教育  
地域の「人」と共に学び考える教育拠点（街中教室）を各地域に設置して教育を展開し、地域社会の一員としての意識、意欲及び責任感を育成します。
- 「国際的」視点を養う教育  
観光関連の教育実績を持つ海外協定校への学生派遣や共同カリキュラムの実施のほか、ICT を活用した双方向通信による語学教育を行います。



## 研究

### 観光客の長期滞在を促す「仕掛け」の発掘による地域ブランドの確立

本学は、これまで北海道が抱える地域財政の危機や、失業、経営不振といった課題に対し、地域に存在する大学として、産学官連携拠点である「ビジネス創造センター」及び地域研究を組織的に推進する「地域研究会」を中心に、数多くの共同研究を重ねてきました。本事業では、これまで培った研究ノウハウや自治体等との関係を土台とし、潜在する観光資源を新たな観光資源として開発するための研究や、観光情報の発信、商品・観光パッケージの開発、国際マーケティングや地域通貨の流通実験など、観光客の長期滞在を促す「仕掛け」の発掘に特化した「地域課題研究」及び「社会実験」を推進し、「地域ブランドの確立」を目指します。



## 社会貢献

### 地域の人々を主役とした「しりべし地域観光ネットワーク」の形成

総合観光地域の創出に向けて、地域に対して有形無形のサポートを行います。具体的には、総合観光地域づくりの主役となる地域住民・観光従事者を対象に、これまでの本学の公開講座の実績と課題研究の成果を基に地元人材育成プログラムを策定し、地域の人々に学習機会を提供します。また、本事業に関わる地域 NPO 法人等の設立及び運営を支援するほか、各地域で地元住民と具体的な熟議を行う「地域懇談会」を開催します。本事業における取組の成果については、フリーペーパーやホームページ等で情報を発信し、地域間連携をコーディネートすることで、地域の人々を主役とした「しりべし地域観光ネットワーク」の形成を図ります。